



crossing cafe



Vol.12

2024.7.1

発行:スペースベン
毎月1日 347部発行
〈webでも配信中〉
<https://bit.ly/3U8LdnL>

TOPIC

毎日のモヤモヤを笑いでぶっ飛ばす!
笑って笑って元気になる!

清水宏の 明日のための スタンダップコメディ

〈オープニングアクト〉やえざきゆうこ

八戸編



〈清水 宏〉

ラジオ、テレビ、舞台上で活躍中。日本全国ツアーなどを行う一方で、海外でもロシア、中国、台湾、韓国、メキシコなどで現地の言葉でコメディを敢行する。

清水宏webサイト <http://shimizuhiroshi.net/>



2024年 **7月4日(木)** 18:00開場 18:30開演
●前売料金／一般 2,500円 学生 1,500円

〈チケット予約・購入〉
<https://teket.jp/1122/34931>



問合/スペースベン owner@spaceben.com ☎080-6025-0990※出られない時は折り返しご連絡します

〈スペースベン 7月の予定〉

FANS 予定 第1587~1590回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

7月26日(金)佐藤拓之 即興演劇 vol.2「おひとりさま」

料金/一般1,000円 学生500円(当日各100円増) ※特別番組で料金が通常と違いますのでご了承ください

〈Dance Lesson〉

- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP
- 毎週土曜日 16:30-18:00/BRE FAM HOUSE DANCE HARUクラス

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。
■毎月第2・4水曜日 14:00-15:30予定 ※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈メンバーズカード〉

チャージ可能なプリペイドカードで、入場の際ご提示いただくと前売料金で入場いただけます。また、どの公演でも入場料から3%値引きいたします。チャージは現金でもクレジットカードでも可能です。



〈キャッシュレス決済〉

「PayPay」「ID」他、カード払いに対応しています。

- 各詳細は080(6025)0990にお電話でご確認ください

〈theater information〉



寺山修司記念館 特別企画展 2024「青女たち・女神たち」

寺山修司の女性論

【日時】2024.12.1(日)まで

開館時間9:00~17:00(入館は16:30まで)

【場所】三沢市寺山修司記念館

エキジビットホール

【料金】一般個人 ¥550

(常設展¥330+企画展¥220)

一般団体 ¥440(20名以上)

高大生¥110 小中学生¥60

※土曜日は、中学生以下無料

※障がい者手帳呈示の場合、本人と介護者1名は全額免除

【問合】三沢市寺山修司記念館

☎0176-59-3434

写真家鋤田正義が撮った『青女論』のミュージズを道しるべに、寺山修司と伴走した青女たち、女神たちにスポットを当てて。



第20回 八戸東高校表現科公演「輝 tell」

【日時】2024.7.20(土) 13:00~

【場所】八戸市公会堂

【料金】無料

【問合】八戸東高校 ☎0178-43-0262



佐藤拓之 即興演劇 vol.2 おひとりさま

【日時】2024.7.26(金) 19:30~20:30

※終演後交流会も開催

【会場】スペースベン

【料金】一般 ¥1,000 学生 500円

(当日各100円増。特別番組で料金が

通常と違いますのでご了承ください)

【問合】スペースベン 080(6025)0990

【チケット予約】<https://bit.ly/3wqh1g8>



八戸でインプロのワークショップを続けている佐藤拓之の即興演劇。

〈Free Column〉

劇場の 片隅から

文/柏井 容子
(おとなエンゲキヴ 部長)

もと子ってこんなこと言うかな。そんな問かけが続く約3か月の稽古期間で、『私説 もと子』は当初の脚本からガラッと変わった。よく言えば、「成長する脚本」だったのかもしれない。セリフは本番直前まで演出によって手を加えられ、どこかちぐはぐだった登場人物たちがきれいに一人の人間として整えられていった。その手直しの妙たるや。今回も演出家によって人間に仕立てていただいた、と、私は思っている。年に一回の、欠かせない、矯正だと。

特別寄稿

第9回八戸市公民館特別企画演劇公演 羽仁もと子生誕百五十年記念「私説 もと子」

芝居が生き物なら

文／安達 良春



■八戸市公民館特別企画演劇公演
羽仁もと子生誕百五十年記念
「私説 もと子」
脚本／榎谷伸夫 演出／三浦哲郎
2024.5.24(金)・25(土)
八戸市公会堂 文化ホール

八戸市公民館特別企画演劇公演に足を運んできた。コロナ禍での休みもあったが、もう第9回を数える事に驚いた。上演作は「私説 もと子」。タイトルに「私説」とあるのは、脚本の榎谷伸夫氏の心の中で羽仁もと子がどんどん膨らんで自由に動き出し、もと子の言動を現在に結び付けたいという想いからだという。羽仁もと子。名前は聞いたことがある程度の知識しかなかったが、期待が膨らむ。

最近ではチラシやポスター以外にもネットはもちろん、関係者のSNSでも様々な情報を得られる。稽古の状況や出演者の葛藤までも垣間見られる。稽古が始まり、本番も近づいてくる中、順調とは言えない様子も伝わってきた。そんな中チケットを買いに行くと、貼ってあるポスターの演出に三浦哲郎(てつろう)氏が追記されていた。少しずつ雰囲気が変わり、出演者の自信も伝わってくる様になった。「芝居は生き物」とは良く聞く言葉だが、芝居が生き物なら稽古も生き物なんだ、きっと。

そして迎えた当日。これまで観た八戸市公民館特別企画演劇公演の中で一番すんなりと、素直に、説得力を持って自分の中に入ってくる舞台だった。タイトルに「私説」とある理由を知らなければ、全てノンフィクションだと感じただろう。もと子が1人の人間として受け入れられた。取り巻く人物もそれぞれが1人の人間として受け入れられた。何よりも、1つの舞台としてもまとまりを感じた。中でも第2章の冒頭、少し薄暗い舞台の中でパントマイムで見せる新聞社の様子は、コミカルな部分もありながら美しく、台詞は無いものの忘れられないシーンとなった。

ふと思う。これまで私が観た八戸市公民館特別企画演劇公演では、あまり感じる事もなく帰った事もあった。今回の公演は何か違ったのだろう。稽古の賜物か？ 演者の技量が上がったのか？ 演出の妙か？ 今作に向けた熱量か？ 単に私の好みの問題か？ これに答えを出す事はできなかったが、第10回が開催されるなら私はまた期待して足を運ぶに違いない。

八戸市公民館特別企画演劇公演は「10代～40代の若手演劇人が演出家／三浦哲郎(てつろう)氏の指導を受け、八戸の演劇シーンの中心になって欲しいという思いで始まった」もの。これまでも若い出演者が多く、今回もフォーチュシアター八戸・おとなエンゲキヴ・アクトプロジェクトToyBoX、劇団地底人(二戸市)から出演している。この経験が活かされ、またそれぞれの劇団の新しい活動に繋がっていく事を願ってやまない。

●筆者近況

芝居をやる為に気力体力の充実は必須条件。芝居を観る為にも気力体力の充実は必須だと今更実感しています。「自分の足で観に行かなくちゃ駄目になる」と謎の強迫観念に襲われながら、流行りのサブスクで古い映画を観る事もやめられません。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか？

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



アハホテル
←至三日町 R340
セブイレブン
すこやかホーム
ゆうゆう

R45

NTT

FANSってナンだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には「ここで何かおもしろい事をやっている」という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。